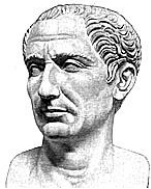




第 14 回 ローマ帝国の成立

1 カエサルの独裁と暗殺

- ・クラッススの戦死後、残ったカエサルとポンペイウスが互いに争い、最終的にはカエサルが勝利した。



カエサル

- ・ポンペイウスはエジプトに逃亡したが、そこで暗殺された。
※エジプトに上陸したカエサルと、プトレマイオス朝エジプトの女王（ ）とのロマンスが有名である。
- ・カエサルは終身独裁官となり、インペラトルの称号を得て独裁者となった。
→前 44 年、独裁に反感を持つ（ ）などによって暗殺された。

<カエサルの最期>

- ・16 世紀、イギリスの劇作家である（ ）が書いた『ジュリアスシーザー』によれば、このときカエサルは、暗殺者の中に自分が信頼するブルートゥスがいたのを見て、「ブルートゥス！お前もか…」と言ったといわれる。



ルビコン川を渡るカエサル

ポンペイウスと対決する際、カエサルはルビコン川を渡っている。この時の発言が、名言として非常に有名である。
「Alea jacta est !」



クレオパトラ

世界3大美女のひとりとされている。容姿よりも知性が醸し出す雰囲気、華があったらしい。絵はカエサルと出会ったシーン。



ブルートゥス

ブルートゥスの母親は、若いころにカエサルと付き合っていたことがあった。カエサルの最期の言葉には、そういう背景もあった。

2 第2回三頭政治

- ・ブルートゥスらは、残ったカエサル派と戦ったが敗れて自殺した。
→前 43 年、カエサル派の 3 人が同盟を結び、（ ）が成立した。

◆（ ）

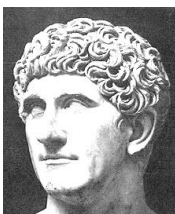
- ・カエサルの部下であり、元々カエサルの後継者と見られていた。

◆（ ）

- ・カエサルの養子であり、遺言によってカエサルの後継者となった。

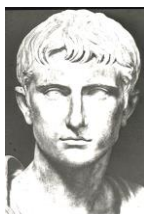
◆（ ）

- ・カエサルの部下だが、一番実力が劣っておりすぐに政治から遠ざけられた。



アントニウス

ブルートゥスらを破った立役者で、3人の中では一番有力であった。しかしクレオパトラと愛人関係となつてから、全てが狂っていった。



オクタウィアヌス

カエサル暗殺時は、まだ 18 歳であった。美少年であり頭も抜群に良かったが、虚弱体質もあって戦争は苦手であった。クールな性格。



レピドゥスの銀貨

レピドゥスは、無謀にもクーデタを起こしたが、あっさり失敗し、失脚した。その後は隠居状態となり、田舎でのんびり余生を過ごしたらしい。

3 ローマ帝国の成立

- ・レピドゥスの失脚後、アントニウスとオクタウィアヌスの対立が起こった。
→アントニウスは、プトレマイオス朝の女王（ ）と結んだ。

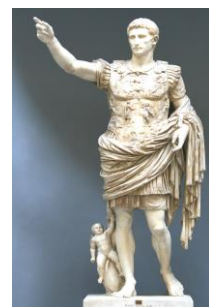
- ・前 31 年、オクタウィアヌスは、（ ）で、アントニウスとクレオパトラの連合軍を破った。
→前 30 年、敗れたふたりが自殺し、プトレマイオス朝エジプトも滅亡した。

☆（ ）（前 27 年～後 395 年）

◆（ ）（在位 前 27 年～後 14 年）

- ・前 27 年、オクタウィアヌスは、元老院からアウグストゥスの称号を贈られた。
- ・アウグストゥスは、「市民の第一人者」という意味の（ ）を自称したが、実際には全ての政治権力をにぎる絶対権力者であった。
※この政治体制を（ ）という。

→事実上の初代ローマ皇帝であり、ローマ帝国が成立した。



アウグストゥス
虚弱体質だったはずが、
結局 40 年以上も権力者の
座に座り続けた。

- ・プトレマイオス朝エジプトを滅ぼしたことで、地中海世界にはローマ帝国に対抗できる勢力はいなくなった。
→「
」と呼ばれる平和と繁栄の時代となった。
- ・ただし後 9 年、トイトブルク森の戦いで北方のゲルマン人には敗北した。



カリグラ

◆カリグラ（在位 37～41 年）

- ・精神に異常をきたし、凶暴化した。

◆（ ）（在位 54～68 年）

- ・当初ストア派の哲学者（ ）が補佐したが、後に自殺を強制した。
→暴虐な皇帝となり、64 年、ローマの大火をきっかけに、（ ）をはじめて迫害したとされる。
→このとき（ ）と（ ）も、ローマで殉教したとされる。



ネロの銀貨

